



# いきいき北っ子

文責：恩田

入園・進級から2か月が経ちました。保護者の皆様のお力添えのおかげで、どの子も落ち着いた園生活を送っております。

さて、乳幼児期は自分の生活を離れて知識や技能を一方向的に教えられて身に付けていく時期ではなく、こども園の生活や遊びを通して直接的・具体的に体験をすることで学びを深めていきます。子ども達の普段の遊びの中からその姿（学び）を紹介します。

※バニラアイスののにおいがするお花を探してみよう。

五感（視覚・臭覚・聴覚等）を使い、自分が発見したことを言葉で伝えたり、共有したりしています。

「あっ!これじゃない?」

「私も、においをかぎたい」



※廃材を使って、自分のイメージしたものをつくろう。(必要と思われる廃材を自分で選びました)

形も大きさも様々な廃材から、自分のイメージしたものをつくるため、試行錯誤して形にしました。その過程で、友達の工夫にも触れ、自分に取り入れるなど学びを深めていました。

「これをどうやってくっつけようかな?」



※濃い紫色の色水をつくり、ペットボトルに入れてありました。それを、コップに移し水をいれたところ、濃度が変わったことに子ども自身が気付きました。そこで、保育者が「色の順番に並べてみる?」と投げ掛けた場面です。

「これくらいかな…」  
「こっちの方が、濃いかな…」



まず、濃い色の色水をつくるためには、道具の選択や使う花の数・水の量を考える必要があります。そして、つくった色水をペットボトルに移す時にも、道具の選択や力加減が必要です。さらに、濃い色水に水を加えて濃度の違う色水をつくろうとすると、また新たな試行錯誤が必要となることから、「思考」と「学び」の連続を繰り返しています。

子ども達の豊かな遊び(経験)を支えていくため、今後もご家庭に協力依頼をすることがあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

北方町立こども園運営協議会の会長さん(住田さん)が今年度もきれいなバラと百合を玄関にご用意してくださいました。子ども達をいい匂いで迎えます。

